

すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報

第257号
2016年3月



一般社団法人
大学女性協会



国内奨学金贈呈式 2016年1月9日(土) 京王プラザホテル「花の間」にて

もくじ

〈2016年度全国総会・第5回定時会員総会ご案内〉

会長挨拶・総会関連行事のご案内……………	2	本部からの報告……………	9
全国総会のご案内……………	3	国際奨学、自然科学、女性エンパワーメント各委員会より	
国内奨学金贈呈式……………	4	支部だより 北から～南から 大分・群馬支部 ……	10
研究概要と将来の抱負……………	5～7	2016年新春のつどい、広島親睦旅行、長崎支部留学生交流会 ……	11
世界の女性との連携……………	8	守田科学研究奨励賞贈呈式・会員拡大委員会・理事会から	
		創立70周年記念事業・観劇のお知らせ・新入会員……………	12

全国総会・定時会員総会ご案内

2016年5月21日(土)～5月22日(日)

2016年 新年のあいさつと総会へのお誘い JAUW会長 中村久瑠美



2016年を皆様いかがお迎えになりましたか。

大学女性協会は今年創立70周年を迎えます。

1946年創立のこの協会は、女性の高等教育の推進、女性の地位向上、国際協調・世界平和の3つを主たる目的とする社団法人として、

活動をしてまいりました。

大学に進むこと、学問の道を究めることはかつては専ら男性のみであって、女性は望むべくもなかったのです。

大学女性協会は終戦後、新憲法の発布と同時に、女性の高等教育の重要性を第一の旗印に掲げ、結成されました。若い前途有為な女子学生、女性研究者を表彰し励ます意味で奨学金を授与してその研究を応援してきたのも、その精神の一環であります。

創立70周年にあたる本年、皆様には是非ともご参加いただきたい春、秋の2大イベントを、ご案内いたします。まず第一は春の総会です。

5月22日(日)、全国総会・定時会員総会が神戸にて開催されます。神戸支部の皆様には、すでに準備にお忙しくされていることでしょう。

今年は2年ごとの役員交代もあり、新しい理事も誕生します。JAUWは創立70周年であると同時に、一般社団法人に移行して5年目を迎えます。

会員数拡大を目指して会員拡大委員会を設置し、昨年ワークショップを東西2ヶ所で開催するなどして、新会員の割拡大を各支部にお願いしておりますが、全体的には会員数は減少しており、高齢化が進むなど本会は今、まさに岐路に立っているといえます。

これからの大学女性協会はどうあるべきか？次の世代の女性が本当に輝く社会にするために、JAUWとして何ができるか？そのための組織はこれでよいのか？そうした課題を、全国の会員の皆様とともに語り合う絶好の機会です。さらに当日は、神戸支部の三木谷会員のご子息で、かの有名な楽天会長のご講演もいただけると聞いております。世界的にご活躍のIT業界の旗手のおはなしが直接に伺える

とは、夢のようではありませんか？

どうか皆様、風薫る5月の神戸へぜひともお足をお運びいただき、創立70周年の記念の年の総会を盛り上げて下さい。

そして、菊薫る11月12日(土)、創立70周年記念祝賀会を東京の高輪プリンスホテルで開きます。記念講演や、音楽会なども予定しておりますので、多数のご出席をお願いします。

今年も昨年に引き続き「女性の自立」をテーマに、各委員会や支部ごとの勉強会を活発に展開することによって、相互理解と友情を育みつつ、世界の女性の幸せを願って、諸活動に邁進して参りましょう。

本年もJAUWをよろしくお願いたします。

総会関連行事のご案内 神戸支部実行委員長 三木谷節子

2016年度全国総会・第5回定時会員総会が神戸で開かれます。神戸開港150周年、JAUW創立70周年の節目の年に全国の皆さまをお迎えできることは大変嬉しいことです。阪神淡路大震災から21年、その傷跡もほぼ落ち着いてきました。会場は世界ではじめて内陸の丘を削り、ベルトコンベアーで土砂を海岸まで、バージで現地まで運び人工島を造成した、ポートアイランドに建つホテルです(採取の跡地はニュータウン)。21日の懇親会では会員のソプラノとフルートの演奏をお楽しみいただけます。

22日昼食後の講演会には、神戸出身の楽天会長兼社長三木谷浩史氏に「楽天のダイバーシティとイノベーション(仮)」の話をお願いしています。

23日の研修旅行では、時間の関係で神戸市内の西部しかご案内できませんが、世界に誇る真珠の街「神戸」を代表する「TASAKI 真珠」、世界の最先端に行くスーパーコンピューター「京」を見学。幕末、日本で最初に開港し、150周年を迎える神戸港、(今は面影が薄れていますが)平清盛が夢をかけた日宋貿易の拠点兵庫の泊などを通り、昼食は、数多い大正時代の富豪たちがその贅と粋をこらしたモダンな邸宅跡の一つでランチをお楽しみいただけます。

古墳と淡路島、世界一の明石海峡大橋をたっぷり楽しんだあと、帰路には、万葉集、源氏物語、平家物語の遺跡を車窓からご案内、当時の貴族の華麗な世界、熾烈な源平合戦を偲んでいただきたいと思います。スパコン「京」、古墳では、学芸員などに案内していただきますが、ガイドはすべて、神戸支部員が担当します。皆様のお出でを心からお待ちしています。

2016年度全国総会・第5回定時会員総会日程

2016年度全国総会・第5回定時会員総会ご案内

2016年度全国総会を神戸市で開催いたします。日程等は下記の通りです。皆さまお誘い合わせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

1. 全国総会日程（会場：神戸ポートピアホテル）

5月21日(出)

支部長会 14：00～17：00（本館2F すみれ・のじきく）

懇親会 18：00～21：00（南館 B1 トパーズ）

5月22日(日)

総会 9：30～16：30（南館 B1 トパーズ）

午前 定時会員総会

午後 ・公開講演会

「楽天のダイバーシティとイノベーション」

講師 三木谷浩史氏

楽天株式会社 代表取締役会長兼社長

・報告及び懇談

2. 参加費

懇親会参加費：8,500円

総会費：3,000円 総会昼食代：2,000円

3. 宿泊

《神戸ポートピアホテル》

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目10-1

TEL.078-302-1111（代表） FAX.078-302-6877

* ホテルの申し込み、変更及びお支払いは、各自ホテルへ直接お願いいたします。

* ご予約の際は、必ず大学女性協会とお伝え下さい。

4. 申込方法

①申込書に必要事項を記入の上「支部提出用」は各支部へ提出。「個人控」が必要な方は各自でご用意下さい。各支部で出席者を取りまとめ「支部出席まとめ用紙」にご記入の上**3月31日(日)までに**下記にお送り下さい。

②費用（総会費、昼食費、懇親会費、研修旅行参加費）は、**4月10日(日)までに**、同封の振込用紙を用いて個人別にお振り込み下さい。通信欄に必ず、ご参加項目、支部名をご記入下さい。

【振替口座番号】00920-0-309047

口座名：一般社団法人大学女性協会神戸支部

③総会、昼食、懇親会、研修旅行のキャンセルは**4月30日(土)まで**とします。但し、総会費3,000円は、日時に関係なく返却できませんのでご了承下さい。

* ご不明の点がございましたら、実行委員長 三木谷節子までお問い合わせ下さい。

* 第5回定時会員総会開催通知は、議題を添えて4月21日頃発送いたします。

実行委員長 三木谷 節子

〒655-0039 神戸市垂水区霞ヶ丘3-6-10

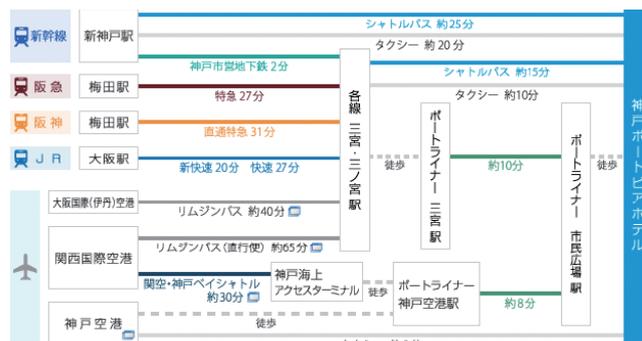
Tel/Fax：078-707-3645

Eメール：setsukumikitani@hi-net.zaq.ne.jp

研修のご案内

★5月23日(月) 研修旅行（先着70名） 6,500円
・田崎真珠・理研「計算学研究機構」・五色塚古墳
・昼食会場：舞子ホテル大正の海運王の迎賓館、潮風と緑の光のレストラン
8：30 神戸ポートピアホテル玄関集合
15：30 三宮駅解散

神戸ポートピアホテル アクセス



〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目10-1

TEL：078-302-1111

JR 新神戸駅からホテル無料バスは1F バスターミナルから

ホテルシャトルバス乗り場（JR 三宮駅）



会員の皆様へのお願い

4月21日頃、「第5回定時会員総会開催通知」を「議決権行使書」とともに正会員の皆様へ発送いたします。開催通知には予算案及び決算報告、各議案が同封されていますのでご覧ください。定時会員総会は重要な総会ですので、正会員の皆様には万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いいたします。欠席の場合は、「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上、5月14日(土)必着でご返信ください。

国内奨学金贈呈式

2016年1月9日（土）京王プラザホテル4F「花の間」にて

選考にあたって

第68回 一般奨学生

第25回 安井医学奨学生

国内奨学委員長

秋光 正子

大学女性協会国内奨学金は、一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金の3部門からなり、一般奨学生と社会福祉奨学生の中から特に女性、教育、国際関係分野の研究を行う学生1名をホームズ奨学生として選んでいます。

今年度は6月8日、合計247大学へ募集書類を発送し、8月28日応募を締め切りました。全応募者数は82名でした。その内一般奨学生応募者は15支部58名でしたが、各支部の中で一次選考を行い、9月19日の時点で一般奨学生応募者29名、安井医学奨学生応募者14名が10月25日の本選考に残りました。選考委員15名による厳正な審査では、応募学生の研究内容とともに関連した分野への啓蒙活動など社会的な活動姿勢にも視点が置かれ大学女性協会ならではの選考が行われました。その結果、一般奨学生5名、安井医学奨学生1名が、またホームズ奨学生は一般奨学生候補者の中から1名が候補者として選ばれ、11月7日の理事会において正式に奨学生として承認されました。以下各奨学生について紹介します。

ホームズ奨学生は、李美奈さん。近代初期イタリアでのユダヤ人強制居住区ゲッターを取り巻くキリスト教社会とユダヤ社会の関係についての研究に取り組まれており、国際問題を論じる基本概念を問い直す姿勢が評価されました。一般奨学生は、つぎの方々が選ばれました。南アフリカにおける長い民族分断政策の中で原住民族がいかに闘って来たかをソト人を事例にして研究されている河野明佳さん、大気上空中間圏に発生する放電発光現象（スプライト）と落雷位置の関係の解明に取り組まれている鈴木裕子さん、地層から億年スケールの地球・生命史を解読しようとしている久保田彩さん、都市貧困層で苦しむ人々への二葉幼稚園の慈善事業がいかに近代的家族化に貢献していったかを辿っている大石茜さん、軽量鋼骨組を使う低負荷耐震補強のメカニズムを開発された佐藤美帆さんの5名です。

安井医学奨学生は、高橋愛実さん。動物細胞に含まれるHLA-G2という分子が免疫抑制効果を持つことを突き止め、自己免疫疾患の治療薬への応用を視野に研究されています。奨学生として選ばれた皆さんは独創的な研究に取り組まれていると共に外への発信力が群を抜いて活発であることが高く評価されました。将来素晴らしい女性リーダーとしての役割を果たして下さることを期待しています。



第44回 社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長

兎林 英子

2015年度社会福祉奨学生候補者の推薦を、6月各支部長及び大学学長に依頼すると同時に Web で募集し、8月末締め切り、大学院生3名・大学生7名の応募をいただきました。

10月の選考委員会には会長・担当理事の同席のもと、委員一同真摯に選考にあたり、大学院生2名を奨学生候補者として選出し、11月の理事会で正式に社会福祉奨学生として承認されました。今回は大学生が選出されなかったことが、課題として残りました。

新しく奨学生となられた方々を、紹介いたします。

花岡恵梨香さん：津田塾大学大学院 理学研究科 情報科学専攻 後期博士課程 在学中

何らかの組み合わせ構造、制約を持つ集合を数えること、列挙すること、ランダム生成することを研究する「離散確率論」に取り組んでいらっしゃいます。

田中あかりさん：名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 後期博士課程 在学中

「障害児を育てる家族における家族レジリエンス（回復力・可塑性）」を研究していらっしゃいます。

この度奨学生となられたお二方が、受賞の喜びを胸に艱難を乗り越えて、益々研鑽を積まれますよう祈念いたします。

研究概要と将来の抱負

ホームズ奨学生

近代初期イタリアのヴェネツィア・ゲッターを取り巻くキリスト教社会とユダヤ社会の関係についての研究

東京大学 人文社会系研究科 修士課程2年

李 美奈

イタリアはヨーロッパでいち早く近代的国家体制を作ったといわれる。統一的な法体系や官僚システムが整い、近代的な国家概念や市民概念などが形成された。一方で16世紀からユダヤ人のゲッターが各都市で建設された。これは壁で囲まれた強制的な居住区であり、また3世紀にもわたって存在し続ける。さらに近代国家が成熟し19世紀にゲッターが解放されても、ユダヤ人は西欧社会で特殊な存在であり続ける。本研究はゲッターを通して西欧近代化が生み出した問題を明らかにすることを目的とする。修士課程においては、イタリア都市国家で貨幣経済が著しく発展したことにより、出身地を問わず経済的貢献によって市民の階級が決められていった一方で、流動性の高い都市社会をまとめるために都市への忠誠心を確認する「都市の宗教」が発展する中で、ユダヤ人がどのように受容・排除されたか、またユダヤ社会の在り方にどのような影響を与えたかをテーマとしている。

現代において私たちが「国家」・「宗教」と考えているものは、あくまで西欧社会を基準にして成立した概念であり、他の社会形態をもつ集団には当てはまらない。その一つがユダヤ社会であり、この研究は反ユダヤ主義の源泉に迫るとともに、現代の西欧に住むムスリムなど、信仰と愛国心のはざまにある人々の問題にも通じるものである。国際問題を論じる基本概念を問い直すことで、これらの問題への解決の一助になることを目指している。

一般奨学生

南アフリカにおける民族とバンツスタン政策

—ソト人を事例に—

津田塾大学大学院 国際関係学研究科 後期博士課程3年

河野 明佳

今日の南アフリカにおいて既存のものとして認識される民族の枠組みは、様々な要因の影響を受け、構築されてきたものである。本研究では、歴史的要因を背景に、体制、エリート層、民衆が相互に影響するなかで民族が形成されてきた過程を、ソト人を事例に明らかにする。

特に焦点をあてる1970年代から80年代にかけての民族分断政策（バンツスタン政策）は、アパルトヘイト体制の根

幹を支えるものであり、その政策に沿う形での民族の標榜は、解放闘争主体にとっては体制への協力を意味した。本研究が状況改善のためエリート層と民衆が民族の名の下で協力関係を築いていった過程を明らかにすることは、これまで解放闘争主体側からの側面のみが捉えられていた分断統治政策枠組みの中での人びとの闘いを照射することになる。またそこから、植民地化による民族の分断から始まる支配・被支配の関係の中でソト人という民族がいかにして形成されてきたかを、人びとの主体性という観点から明らかにできると考える。

博士号取得後は、南アフリカの大学で現代の南アフリカ社会が抱える問題を歴史的視点から研究を深めていくとともに、大学教育に携わり、南アフリカの学生たちとアパルトヘイト後の南アフリカについて考えていく場を設けていきたい。また、学部時代より築いてきたソト人たちとのネットワークを生かし、地域の子どものための教育機会拡大などに向けた活動に、研究者として協力していきたい。

中間圏に発生する高高度放電発光現象と親対地雷の発生位置関係の解明

東京学芸大学大学院 教育学研究科 理科教育専攻
修士課程2年

鈴木 裕子

雷雲と電離圏の間に位置する中間圏において発生する高高度放電発光現象の一つに、スプライトと呼ばれる現象がある。1990年頃に初めてスプライトが発見されて以降、高高度放電発光現象は多くの研究者の興味を引き、現在でも数多くの論文が出版されている。

様々なスプライト観測により、雷放電によって雷雲から大きな量の正電荷が大地の電荷と中和されることがその発生原因であることや、スプライトが発生した位置と発生の原因となった落雷位置がしばしば水平方向に50km程度離れていることなどが報告されてきている一方、スプライトがなぜ多種多様な形状を持つのか、関連する落雷位置とスプライト発生位置の「ズレ」はなにか、雷雲内のどの位置の電荷が中和されるか等の疑問については未だによく分かっていない。この現象は雷雲より高い位置で発生し、地上から連続観測は、ほぼ定常的に存在する低・中層雲に遮られ困難である。そこで高い位置に位置する富士山山頂において、定点高感度 CCD カメラを用いてスプライトと放電に伴い発生する雲の発光を同時にとらえ、観測されたスプライトの発生位置と気象レーダーで得られた落雷位置及び、雲の発光位置との関係、VHF電波観測を組み合わせることで、落雷位置とスプライト発生位置の「ズレ」の原因を解

明することを目的とし、研究を行っている。

地層から億年スケールの地球・生命史を解説する

北海道大学大学院 理学院 自然史科学専攻
修士課程2年

久保田 彩

地球の表層環境は、万年・億年スケールの地球内部変動や宇宙環境変動が原動力となってその様相を大きく変えてきた。生物はこれに伴うように、多様な環境下で適応と放散を繰り返してきた。これらの膨大な情報はほとんど失われるが、唯一、「地層」や「化石」といった堆積物に記録される。これを丹念に読み解き、積み重ねていくことで、現在という一瞬からは見出すことのできない「地球・生命の進化」を復元することができる。私は自身の研究において、長い時間軸・空間軸上で事象をとらえる視点を持つことを主軸としている。特に今後博士研究では、「地層」に刻まれた堆積構造の観察をベースとして、堆積過程の再現実験、年代分析など様々な手法を取り入れながら、規格外の津波現象の痕跡の抽出に取り組む予定である。

私はフィールドワークを原点として、従来の地球・生命史を一新する研究を目指している。近年は分析・測定技術の向上がめざましく、自然科学分野においてもこれらを用いた高精度なデータ抽出がさかんに進められている。私は、これらを積極的に活用しながらも、野外での地質調査や試料採取という一次データの取得を研究の出発点として重視している。未知のフィールドには、これまで誰も気が付いていない発見が散りばめられている。野外での地道な観察を通して、地球・生命現象の根本に迫る研究を生み出した。そして、研究を通じてあらゆる人々に「新しい世界観」を提示できる研究者になりたいと考えている。

都市下層の近代家族化と慈善事業

―二葉幼稚園を事例に―

筑波大学大学院 人文社会科学専攻 博士後期課程2年

大石 茜

私の研究対象は、今日の児童福祉や母子保護の先駆と言われる二葉幼稚園という慈善事業である。1900年に二人の女性によって創設された二葉幼稚園は、女性ならではの視点をもって、貧困に苦しむ母子たちを支援していった。創設以来の貴重な資料を丹念に読み解くことによって、権力に巻き込まれ国家に利用されながらも、人々の日常の苦悩に寄り添い、新しい社会保障のあり方を模索し開拓していった歴史に改めて光を当てたい。

この研究の特色は、天皇制や男女不平等、近代的家族といった、これまで否定的な評価を付与されてきた社会構造が、実は、当時の社会においては、新しい試みを肯定する

役割も担っていたという視点である。軍国主義下の慈善事業は弱者をないがしろにする国家権力への共犯でしかなく、戦後の福祉制度の進展は民主化であり進歩であるというような二項対立から脱却し、時代の制約や国家の干渉を受けながらも、先駆と言われた二葉幼稚園において、どのような苦難や新しい試みが存在し、次の社会へとつながる新しい実践が芽生え、今日の社会福祉の基礎となっていたのかを明らかにしたい。困難な時代であっても、必死に人々の生と向き合い、少しでもより良い社会につながると信じて懸命に事業を運営していた人々の歴史は、今日の私たちにとって、希望でもある。研究を通して、今日の社会が良き方向に変わっていくための道しるべを示していきたい。

軽量引張鋼棒と鋼板を組み合わせた鋼骨組の低負荷耐震補強機構の開発

京都大学大学院 工学研究科（建築学専攻） 修士課程2年

佐藤 美帆

耐震性能が十分でない中低層鋼骨組が震災時に大変形を被る場合、柱梁接合部の破断が致命的な損傷となり崩壊に至ることがある。このような建物に対し様々な耐震補強工法が提案されているが、補強工事中のテナント・居住者の立ち退きや、補強前の建物の建築計画の変更、さらには補強に伴う建物の強度・硬さの大幅な変化による周辺部材や基礎の追加補強を必要とするものが殆どである。そこで本研究では、1) 重機や溶接の使用を避け、建物を使用しながらの工事を可能にする、2) 補強前の建築計画を尊重する、3) 建物の構造特性を変えず柱梁接合部の局所変形のみを効果的に削減する、の3点を目標とした、環境的・人的・構造的負荷を最小限に抑えた鋼骨組の耐震補強機構を提案する。提案する耐震機構は、上記の要求性能に対応して、1) 軽量引張鋼棒と鋼板で構成されており、取り付け時に重機の使用や溶接の必要がない、2) 階高の上部のみを使用することで、建物利用者の視界や通行を妨げない、3) 建物骨組に新たな荷重の流れを生み出し、破断が集中する柱梁接合部の負担を、元々の負担が少ない個所に分配する、といった特徴をもつ。

将来は、3年間の研究生生活を通して得た知識、論理的思考力、さらに留学生との絶え間ない議論を通して得た英語力を生かして、日本を代表して国際的に活躍する社会人になることを目標とする。直近では、まず修士の研究において日本ひいては世界の建築界に有益な貢献をしていきたい。

安井医学奨学生

「免疫寛容を誘導する HLA-G のスプライシングアイソフォーム：HLA-G2及び G6の機能・構造解明」

北海道大学大学院 生命科学院 生命医薬科学コース
博士後期課程1年

高橋 愛実

非古典的 HLA クラス I 分子の一つである HLA-G は、妊娠時、母親の免疫から胎児を守る免疫寛容に関与すると考えられています。HLA-G には、ドメインを一部欠損したものの、二量体化したもの等、様々な分子形態が存在しますが、これまでの研究では、一般的な HLA クラス I 分子の構造をとる HLA-G1（及びその分泌型である G5）が主に研究されてきました。私は、機能未知であったドメイン欠損型の HLA-G である、HLA-G2（及びその分泌型である G6）に着目し研究を行ってきました。これまでに、HLA-G2の細胞外ドメインを用いたりコンビナント蛋白質を巻き戻しの手法によって調製し、物理化学的手法を用いた受容体分子との相互作用解析、ヒト関節リウマチモデルマウスを用いた機能解析を行うことで、in vivo での HLA-G2の免疫抑制効果を示すことに成功しました。この結果は、ヒト生体内でも HLA-G2が HLA-G1同様に重要な機能を持つ可能性を示し、更に自己免疫疾患等の治療薬への応用の可能性も示しています。現在は、HLA-G2の更に詳細な免疫への作用機構を解明すべく研究に励んでいます。近年は、家庭を持ちながらも多くの研究成果をあげ、社会に貢献する女性研究者の方々の活躍を目にする機会が多くなりました。将来は、私もそのような先輩方のように、研究を通して社会に貢献していくことのできる研究者になりたいと考えています。

社会福祉奨学生

「離散確率論・組合せ論に関わるアルゴリズムの研究」

津田塾大学大学院 理学研究科 情報科学専攻
後期博士課程1年

花岡 恵梨香

学部生の頃からグラフ理論や組合せ論に興味を持ち、群上のマルコフ連鎖や数え上げ等を勉強してきた。卒業論文ではルービックキューブの局面の集合について研究を行い、修士論文では正則グラフのインポートランスサンプリングと呼ばれるアルゴリズムについて、同型でない正則グラフの総数をモンテカルロ法により、近似数え上げをする数値実験を行った。近似数え上げは実験的に高精度であるが、理論的な推定精度の評価を行うことは出来ておらず、今後の研究課題である。今後はなんらかの組合せ構造、制約をもつ集合を数えること、列挙すること、ランダム生成することを研究する予定である。この分野は数学と計算機科学の境界領域に位置し、両者の手法、技術を用いて問題に取り組む。数学的な興味から発生した問題に、情報科学科で学んだ計算機プログラミング、アルゴリズム等の知識、技

術を活かして取り組み、結果を計算機科学にも還元できる。今後、研究を重ね博士号の学位取得を目指す。学位取得後は高専や大学など教育機関で研究者として研究を進めながら、教育者として教育の現場にも携わりたい。研究者として障害があっても夢を諦めずに目標に向かい努力を続け、健常者と同じように研究を行い、障害者と健常者という垣根をなくしていきたい。女性研究者や障害者というマイノリティである存在だが、だからこそ両方の立場から発信し、障害者の進学率を高めることや、女性研究者を増やすなど社会が変わっていくような働きかけをしていきたい。

障害児を育てる家族における家族レジリエンスの検討

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 心理発達科学専攻
博士課程後期課程1年

田中 あかり

障害児を育てる家族は多大な心理的困難さを抱えており危機的状況に直面することが多い。そのような中、障害児をもつ家族の家族レジリエンスは重要な概念として指摘されており、更なる知見の積み上げが期待されている分野である。家族レジリエンスとは、未だ統一した見解がなされていないが「現在、将来において、直面するストレスに家族が適応したり成長したりすることであり、家族がたどる軌跡」などと定義されるものである。

博士前期課程では、量的手法を用いて発達障害児を育てる家族レジリエンスの検討を行った。その結果、就学前の子どもを育てる家族の家族レジリエンスが高いこと、夫婦内のサポートとソーシャルサポートが家族レジリエンスに正の影響を与えていることが明らかとなった。博士後期課程では、より詳細な家族レジリエンスの様相を明らかにするために、質的手法を用いて重症心身障害児の家族の家族レジリエンスの検討を行う。つまり、子どもに重症の障害あるという予期せぬ事実と直面することから始まり、家族が多く危機的状況を経験する中で、どのような経過を辿り家族レジリエンスが発揮していくのか、また、それにはどのような要因が影響しているのか、そのことでどのような結果が起こりうるのかについて明らかにするというのである。本研究は障害児を育てる家族における家族レジリエンス向上に向けた支援の一助となると考えられる。



世界の女性との連携

女性・女児の人権に関する グローバル・スタンダード（国際水準）と日本の現状

城倉 純子

20世紀は、世界の女性たちがジェンダーの視点に気付き、女性を取り巻く諸問題が先進国・開発途上国を問わず同じ構造をもつ「女性という構造」に起因するとの認識ができた時代でした。国家単位では看過され続けてきた事象が、国連からジェンダーに根差した人権問題であるとされ、その指摘を受けて初めて各国がようやく重い腰を上げ動き出すのが「女性政策」なのです。中でも「人身取引」（人身売買）は国ごとの状況により、様々な形態で巧妙に動いており、日本のJK（女子高校生）産業も、人身取引との指摘を受けるまでは、少年非行との概念下での取り締まりが殆どというのが現状でした。

世界の女性問題を審議し合意を形成し、経済社会理事会に合意決議を提出するCSW「国連女性の地位委員会」は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに重要な役割を果たしてきました。毎年3月に開催されるCSWフォーラムでは、各国から集まった女性たちが、ワークショップでそれぞれの国の女性問題の現状を報告し、迅速で適切な対策を提唱しています。日本からの参加者は、日本社会の人権意識をグローバル・スタンダードに近づけるためには、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを促進したり、政府代表部と共催するサイドイベントでの報告を工夫するなど、努力すべき重要な仕事があると痛感しています。

日本にはグローバル・スタンダードから外れているジェンダー関連の事柄が数多く存在し、女子差別撤廃条約選択議定書（個人通報制度）の未批准もそのひとつです。政府は我が国の司法制度との間で齟齬が生じるおそれがある、としています。ですが、その司法制度の水準は？日本に対し重大な問題として再三勧告されてきた婚姻関係では、

- ・結婚可能年齢16歳⇒児童婚である
- ・女性の再婚禁止期間⇒無戸籍子を生む結果になっている。また、100年来手つかずであった刑法に至っては、
- ・強盗よりも軽い強姦罪刑⇒現行では3年以下で軽過ぎ、
- ・性交同意年齢⇒現行では13歳未満、あまりに低年齢過ぎ、被害者にとって過酷、等々、被害者よりも加害者側の都合を優先するかのような現状です。これらに対する是正勧告が女性差別撤廃委員会から2009年に、自由権規約委員会からは2008年と2014年に、拷問禁止委員会からは2013年に出され、さらに非犯罪化（処罰しない）の方針をとる政府の態度が、2016年2月にも問われる見通しです。

昨年10月に諮問された法制審議会で、それら刑法の見直しを検討され、非親告罪化だけは実現しそうな運びです。これらの不公正を解決するべく、一括法・特別法としての、被害当事者の声を反映した性暴力禁止法の制定、DV加害者更生プログラムの法制化（被害者保護目的のDV防止法だけでは、加害者が野放しにされ再生産、世代間連鎖に繋がっている）などを求める動きがNGOやNPOで活性化しています。昨年12月6日に開かれたジェンダー法学会において、CEDAW委員長の林陽子氏は、ジェンダー平等だと言える指標について以下のように言及しました。

- ・「女性差別（間接差別含む）」を定義した国内法があるか
- ・同一価値労働同一賃金をうたった法律があるか
- ・国際刑事法の視点を尊重しているか

法制度が整わなければ、女性と女児の未来は広がっていきません。刑法改正が着手されたこと自体は喜ばしくても、国際的な水準を満たさない改正で良いはずがありません。そのような意味で、世界と一地域は密接に繋がっており、また国の成熟につながる私たちひとりひとりの認識の在り方が問われるところだと思えます。

「ケープタウンで発表しませんか？」

CIR 山下 いづみ

GWIの世界大会が近づいてきました。（8月21日～23日 会員総会、24日～26日 一般公開会議）一般公開会議では、皆様のセミナー、ワークショップなど発表を募集しております。日頃の活動、研究成果発表のよい機会です。以下の4つのテーマで募集しております。発表希望の方は、詳細をご覧ください、各自でGWIへインターネットで申込むこととなっています。要約（abstract）の提出締め切りは4月15日。詳細は（英文）<http://gwiconference.org>

- 要約提出について <http://gwiconference.org/submit-abstract>
 プログラム <http://gwiconference.org/programme>
 4つのテーマ <http://gwiconference.org/four-strands>

1. Managing complexity in education（教育の諸課題をめぐって）
2. New technologies and their impact on secondary, tertiary and continuing education
（ニューテクノロジーの中等・高等・生涯教育への影響）
3. Human rights and education - from teenager to adult in education and active life
（人権と教育・十代から大人までの教育と実生活の現場から）
4. Access to education for girls and women
（女児と女性の教育へのアクセス）



ケープタウン・テーブルマウンテン遠望

本部からの報告

2015年度国際奨学生報告会 —奨学生はフィンランドとブルガリアから—

国際奨学委員 岩村 道子

新春1月23日に2015年度国際奨学生の報告会がアルカディア市ヶ谷で30名ほどが出席して開催されました。

フィンランド大学院生のレーナ・E・エーロライネンさんは「メタモルフォーゼと日本の怪奇映画」について流暢な日本語でお話してくださいました。レーナさんは怪奇映画をテーマに博士論文を執筆中で、今回の来日を機会に研究も論文も、そして日本語の能力も大いに進展しているようでした。彼女の研究を契機として、日本の怪奇映画が日本はもちろんのこと広く海外でも再認識されていきそうなことも嬉しいことです。

ブルガリアの海洋研究所博士課程在学中のニーナ・S・デンベコーバさんは、黒海に繁殖する有毒植物プランクトン（藻類）をメタゲノム解析により検出なさったことを報告されました。これらの藻類は食物連鎖により貝類に取り込まれて食中毒の原因になっています。研究指導者の長井敏敏先生（国立研究開発法人水産総合センターグループ長）が、彼女の話日本語でやさしく解説してくださいました。ニーナさんはメタゲノム解析手法をこの数カ月でほとんどマスターなさったということです。



「めげないわたし」養成講座 シリーズⅡの開催

女性エンパワーメント委員会 城倉 純子

応募登録者38名、毎回平均20名前後の参加者を得て、シリーズⅠが無事終了しました。「アサーティブ・トレーニングの基礎」を皮切りに、誰もがリーダーシップと無縁ではられない、壁を乗り越える力を培おうとのメッセージに溢れた全5回の講座でした。学生や就業真只中の方々など、20代から80代までの意欲溢れる女性たちが夕方から集い、熱心に意見を交わしあった千駄ヶ谷の会場は、白熱した夕焼け教室となりました。

2016年度シリーズⅡは、「つながろう、つなげよう：社会と私／問題解決の糸口を探る」とのテーマの下に、5月下旬に開講します。女性の可視化されにくい「生きにくさ」を

第14回 自然科学講演会報告 食と生命—その先端科学の現状と未来像

東京大学 名誉教授・大学院農学生命科学研究科 特任教授
(公財) 神奈川科学技術アカデミー

「健康・アンチエイジング」プロジェクトリーダー

2010年 紫綬褒章受賞 阿部 啓子

2015年12月12日(土) お茶の水女子大学にて

【共催】科学研究奨励委員会 東京支部 お茶の水女子大学

第14回自然科学講演会は12月12日に「食と生命—その先端科学の現状と未来像」というタイトルで阿部啓子会員（東京大学名誉教授・大学院農学生命科学科特任教授）にお話をいただきました。食の科学のお話に参加した方が参加してくださいました。



食の科学は今日、機能性食品の科学へと姿を変えつつあります。機能性食品は、未病（半健康の状態）を維持するための食品と定義されていますが、その未病効果の評価は必ずしも厳密におこなわれているわけではありません。阿部氏は産学連携プロジェクト「健康・アンチエイジング」のリーダーとして、機能性食品の評価を義務付けるための未病マーカーの開発をおこなっておられ、得られた成果のいくつかを紹介してくださいました。さらに「食と味覚」の研究として味蕾から脳への味覚の伝達メカニズムや味覚バイオセンサー細胞の開発にも言及されました。

食について多岐にわたる話題をご紹介くださいましたので、私たちの頭はかなり飽和状態になった感じでした。その中から参加者それぞれが興味をもったものを記憶にとどめることができました。

(科学研究奨励委員 岩村 道子)

掘り下げ、どう乗り越えるか。現在のジェンダー問題の解決に向けて、NGOや就労先で私たちは何ができるかを追求します。全7回と秋の合宿とで構成され、最終回は2017年1月に終了の予定です。前回好評だったアサーティブ・トレーニングは合宿で実施します。詳細は協会のホームページをご覧ください。会員外の方々も大歓迎です。お誘いあわせて是非ご参加下さい。お待ちしております！！



支部だより

北から～南から

魅力ある支部をめざして 大分支部長 内田 芳子

Q 最近の支部の活動は？

A 2015年9月、福岡支部長の加藤仁美氏（元九州大学教授）をお招きし、「自立と共生—研究者として時代を生きる」と題してご講演いただきました。女性であるがゆえの不条理を経験しながら厳しい時代を生き抜き、共生へと進んできたことをお話になりました。

11月には、戦後70年の今年、戦争の記憶を後世に伝えていこうと宇佐市にある平和資料館、掩体壕（えんたいごう）を訪ねました。資料館には零戦の実物大模型が展示され、掩体壕の側には滑走路跡も残っている戦跡です。昼食は、会員である金丸佐佑子氏の「生活工房 とうがらし」で伝承料理をいただきました。食材の歴史・調理法を教えてくださいながら、胃袋も心も満たされて心身共に豊かになりました。

2月にはケニアからの留学生との交流会を予定しています。

Q ご当地自慢は？

A 風光明媚な自然が素晴らしい大分県です。フグ・城下かれい・ハモ・関さば・椎茸・かぼす・梅・栗等の海の幸、山の幸にも恵まれています。その上、源泉数、湧出量ともに日本一の別府を有し、名実ともにおんせん県です。

最近では、高崎山のお猿「シャーロット」でも話題になりました。また別名「豊後富士」と呼ばれる由布岳の裾野に広がる湯布院もあり、多くの観光客で賑わっています。一度訪れた人は、必ずや大分の魅力の虜になることでしょう。

Q これから力を入れたいことは？

A 魅力のある会にするにはどのようにすればよいか？
会員を講師とする研修会を、もっと多くの会員外の方が参加しやすい企画にする。できれば他支部と合同の例会を実現できればいいなあと考えています。



生活工房 とうがらし (宇佐市)

ぐんまの女性

群馬支部長 岡崎 朋美

Q 最近の支部の活動は？

A 在籍者5名の当支部では単独事業は行えず、加盟団体の主催・共催事業（ぐんま男女共同参画フェスティバル、ぐんま女性活躍セミナー、etc）にJAUWの会員として個々が活動している状況です。

Q ご当地自慢は？

A ご当地自慢ですが、富岡製糸場の世界遺産への認定でしょうか。それと「かかあ天下」が日本遺産となった事です。平成27年現在、全国で18件が認定されています。群馬では絹産業が盛んで、女性が養蚕・製糸・織物などで家計を支えていました。そんな女性を「うちのかかあは天下一」と称したことから女性像の代名詞となったのが「かかあ天下」です。またこの地で養蚕や製糸の知識と技術を習得した女性が日本各地に赴きその業を伝授し、日本の近代産業に寄与した功績は多大であり、このように女性が多様に活躍していたという文化が一目置かれたという事をうれしく思います。今でもなお群馬の女性は強いとされるのは、ここにあるのでしょうか。

教育面でのご紹介もさせていただきます。新島襄という先覚者を得てキリスト教は教育面にも大きな足跡を残しました。宣教師たちの尽力により明治28年、群馬県第一号であるミッション系私立幼稚園「清心幼稚園」が設置され、松山出身の黒田サチが大正3年に就任し、昭和9年から40年代まで園長として活躍しました。群馬では名門幼稚園とされていますが、その教育精神を受け継ぎ、園長職は退いたものの今なお園児とふれあう毎日を過ごされているのが、当支部の黒田とめ子会員です。

Q これから力を入れたいことは？

A 長きにわたって当協会に尽力された群馬の女性たちを想うと、何とかして会を存続させて行かなければと考えています。活躍できる場を「大学女性協会」と考えてもらえる様な実績をつくる事が課題かと思えます。



富岡製糸場 (画像提供 富岡市)

2016年 新春のつどいに参加して

茨城支部長 加藤 光子

1月9日、本部の『新春のつどい』に初めて参加しました。第1部は、2015年度国内奨学金の贈呈式と奨学生のスピーチ、第2部は、ヴァイオリン・ピアノコンサートという流れでした。昨年、仙台の定時総会でも披露された渋谷由美子仙台支部長のヴァイオリンとゲルティング祥子さんのピアノでクライスラーの名曲が演奏され、ホテルの宴会場は学術と芸術を同時に堪能する贅沢な空間となりました。

圧巻は、北海道から京都までの選ばれた9名の奨学生のスピーチです。彼女たちの研究発表は、ユニークで斬新そのもの。若い彼女たちが研究を続け、人生も遅く切り開いて幸福になって欲しいと願わずにはいられませんでした。会食のテーブルで2人の奨学生と同席し親しく懇談もできました。1人は南アフリカの格差社会を民族的な観点で研究している津田塾大学の院生。15歳の時から南アフリカに行き来する生活をする中で、現地に近い目線で論文を書いたといいます。もう1人は、北海道大学で津波の地層研究をしている院生、熊も出没する大地を調査研究しているそうです。このように、将来ある女子学生に奨学金を贈り励ますという素晴らしい伝統が、当協会にあるのだと改めて感銘いたしました。



広島親睦旅行

事業委員長 中山 律子

「支部交流・親睦旅行」は、11月15、16日広島支部を訪ねました。会長をはじめ6支部21名の参加で広島駅集合。広島名物「お好み焼き」に舌鼓を打ち、その後一路呉市へ。大和ミュージアムで「日米最後の戦艦展」を見学。平和公園に戻り、原爆ドーム、資料館等を見学。戦後70年に戦争の悲惨さ、虚しさあらためて感じさせられた1日でした。夕餉は料亭「久里川」にて広島支部の方7名と合流、季節の牡蠣料理を食しながら語り、楽しく有意義なひととき



原爆ドームの前で

、楽しく有意義なひとときでした。2日目は岩国錦帯橋を見物の後、宮島に渡り厳島神社を散策して帰路につきました。温かく出迎えてくださった広島支部の方々に感謝いたします。

広島支部長 吉村 幸子

今回の旅行で広島にお越しいただき、有難うございます。また、広島支部の会員との交流の場を設けていただき感謝しております。会員総会やセミナーに参加しても、役員の皆様や、他の支部の方と親しく話が出来ることがない会員にとっては、会長様や21名の方とお話しをさせていただき、感謝しております。広島支部として、旅行先に同行することが難しかったため、平和公園の「原爆の子の像」に世界から寄せられる千羽鶴を資源としたオリジナル名刺カードをご活用いただければ皆様にお渡しいたしました。皆様と楽しい時間を共有できたこと、広島支部が若い新入会員を中村会長のお力で得たこと、今後の支部活動に皆様の活動のパワーをいただいたこと等、素敵な時間を共有させていただきました。

全国の支部を親睦旅行で訪ねていただく企画を続けていただくことを期待しております。

留学生交流会 留学生と「子どもたちの今」を考える 文化交流委員会+長崎支部

長崎支部長 鈴木千鶴子

2015年度の文化交流事業は、本部より宮下好子委員長にご参加いただき、昨年に続き留学生との交流会を長崎支部で「留学生と「子どもたちの今」を考える」をテーマに、実施しました。

11月28日（土）、まだ紅葉が楽しめる長崎で、和華蘭（わからん）料理とも称される長崎卓袱を、お昼用のお膳形式で味わいながら、こぢんまりと10名の参加者で密度の濃い交流会を持つことができました。最初に、ゲストの二人の留学生（いずれも中国出身）に、長崎大学大学院でのそれぞれの研究「幼児虐待」と「ネットによるサービス・イノベーション」について紹介してもらいました。次いで、その話題や留学生と近い専門性や立場の2人の支部会員コメンテーター、中田さんと中尾さんから、なぜ「虐待」が起り得るのか、また留学生自身の普段の勉強状況について解説・寸評をいただき、続く参加者全員による活発な意見交換を通して、国を問わず経済発展とネットビジネスの背景に在る多くの人間の働きと子どもたちの状態に、心を向ける好機を得ました。会の後、加納会員が学長の活水女子大学へ留学生と共に招かれ、コンサートを堪能しました。



留学生を囲んで

第18回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式ご案内

第18回賞贈呈式および祝賀パーティーを開催いたしますので、多数ご出席いただきたくご案内申し上げます。

日 時：2016年6月11日(土)
 贈呈式・受賞者講演 13時00分～14時30分
 祝賀パーティー 14時40分～16時00分
 場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
 東京都千代田区九段北4-2-25
 TEL 03-3261-9921
 JR、東京メトロ、都営地下鉄「市ヶ谷駅」より徒歩3分
 会 費：2,500円
 申 込 先：(一社) 大学女性協会事務局
 TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889

JAUW 創立70周年記念事業についてのお知らせ

①公開シンポジウム「女性の自立とは？」

日 時：2016年11月12日(土)
 14：00～14：15 あいさつ
 14：15～15：30 基調講演
 15：30～16：30 鼎談
 17：00～19：00 祝賀会
 会 場：グランドプリンスホテル新高輪
 国際館パミール「瑞光」

②記念コンサート

日 時：2016年11月13日(日)
 (コンサートのお知らせ参照)

*詳細についてはHPのほかで、随時お知らせいたします。
 ☆このシンポジウムは、創立70周年記念事業として特別に企画されました。全会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。秋のご予定にお入れください。
 (企画委員長 梅田 和子)

会員100名拡大をめざして！ 会員拡大委員 市川 知恵子

2014年6月に中村会長と山下 CIR 理事が GWI (IFUW) のアジア地区ワークショップに参加、JAUW の「2016年5月の総会までに会員100名増員」がスタートした。会員拡大ワークショップは2015年1月に東京で、2月に芦屋で開催され、自由に熱く語り合われた。

参加した会員からは、会長・CIR の説明を聞いて非常に励まされ、新入会員勧誘の元気がもたらえたとの声が寄せられた。そこで4月の神奈川支部総会で会長のビデオを見てもらうこととなった。支部会員は会長のメッセージを見て聞いて、会長がこのように熱心に指導してくださるのだから、私達も頑張らなければと大いにやる気を持った。ビデオをきっかけに楽しく会員拡大の話し合いができた。

今、本部から支部へ会長のビデオメッセージを届けようと準備を進めている。さあ、会員100名拡大の目標へ向けて走走しよう！

JAUW 創立70周年記念コンサートのお知らせ

☆記念コンサート第1報！

日 時：2016年11月13日(日) 14：00開演
 場 所：イイノホール
 (東京メトロ霞ヶ関駅直結、500人収容大ホール)
 演 奏：「世界的クラリネット奏者リチャード・ストルツマンとミカ夫人 (マリンバ)+歌手 (未定)」の豪華な顔ぶれです。
 チケット：4,500円 (指定席を予定)
 ☆皆さまご期待ください。随時、詳しくお知らせいたします。(HP をご参照ください。)
 ☆恒例の初夏のコンサートは予定しておりません。
 ☆イイノホールは2011年に新装オープンしました。

お知らせ 事業委員会

- *催し物
 - ・ランチクルーズ《ロイヤルウイング》：横浜港
日 時：9月中旬 12：00～
 - ・《第8回街歩き 上野公園界隈コース》
日 時：6月
 - *観劇
 - ・雅楽「七夕の雅楽」 於：東京オペラシティ
日 時：7月9日(土) 17：00～
管弦、舞楽、番舞 (つがいまい)
延べ8人の舞人が繰り広げる平安絵巻
- ☆詳細は JAUW 事務所あるいは HP で。

新入会員 理事会承認 2015年11月～2016年2月

広島支部 藤本 圭子
 金沢支部 倉田 えれな 再入会

理事会から

- ▶ 2016年3月 NGO/CSW60参加者は、櫻井彩乃さん (参加支援対象者)、島原洋子会員 (仙台支部)、城倉純子会員 (茨城支部 参加責任者)、中村久瑠美会長。他に、青木怜子会員、牧島悠美子会員も他団体より参加します。
- ▶ JAUW創立70周年記念事業準備委員会が発足し、活動を開始しました。
- ▶ 郵送費の見直しのため、2015年度全国セミナー報告書を会報257号と同送付することに決定しました。

訂正とお詫び - P6守田科学賞→守田科学研究奨励賞 (会報256号) P7児林栄子→児林英子
 P12神奈川支部 嶋田君江→嶋田君枝

一般社団法人 大学女性協会
 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
 電 話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
 http://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org
 発行人 中村 久瑠美 編集責任者 端本 和子
 発行日 2016年3月7日